

【国語】 < 中学校 第1学年 >

1 結果のポイント

「話すこと・聞くこと」について、話の内容を正しく聞く力をみる問題や、話し手の説明の仕方の工夫を考えながら聞く力をみる問題では、正答率が80%を上回っている。

「書くこと」について、伝えたい事柄を正しく分類する力をみる問題では、正答率が80%を上回っている。

「書くこと」について、必要な情報を選び、伝えたい内容をまとめて書く力をみる問題では、正答率が50%を下回っており、資料から分かることについて自分の考えをもち、決められた字数で書く力をみる問題では、正答率が70%を下回っている。

「読むこと」について、文章の中心の部分と付加的な部分を読み分け、内容を理解する力をみる問題では、正答率が80%を上回っている。

「読むこと」について、文章の展開に即して内容を正しく読む力をみる問題では、正答率が30%を下回っている。

「言語事項」について、第1学年までに学習した漢字を正しく読む力や、慣用的な表現を正しく使う力をみる問題など、ほとんどの問題の正答率が90%を上回っている。

「言語事項」について、漢字を正しく書く力をみる問題では、正答率が70%を下回るものがある。

2 結果の分析

(1) 話のまとまりに気を付けて正しく聞く力をみる問題の例(「聞く能力」)

<問題> の二

[場面B]では、佐藤さんと鈴木さんが学校紹介として、教科担任制について説明していました。佐藤さんと鈴木さんが教科担任制について話していない内容をア～エの中から一つ選び、符号で書きなさい。

ア 教科の専門の先生が工夫して楽しく分かりやすく勉強を教えてください。

イ いろいろな教科の先生が相談ののってください、悩んでいることが解消したこと。

ウ 教えてください先生が増える分、宿題が増えるので、家庭学習を計画的にするとよいこと。

エ 授業の合間に、それぞれの先生の趣味の話や中学時代の思い出話を聞くことができること。

<結果> 正答率 92.7% (正答...ウ)

<分析>

この設問は、教科担任制の説明として鈴木さんが挙げる複数の事例について、一つ一つをまとまりとしてとらえ、正しく聞き取る力をみる問題である。正答率は90%を超えており、話のまとまりに気を付けて正しく聞く力が十分に身に付いていることが分かる。平成18年度の調査の類似問題の正答率83.5%と比較しても高まってきており、聞くことについての授業改善が効果的に進められていることが分かる。今後も、相手や目的を明確にした実際の話合い活動の場を活用しながら、話の構成や事実と意見の関係を聞き分ける指導を大切にするとともに、効果的にメモを取ることや相手の意図をとらえるための質問をする指導を重視する必要がある。

(2) 必要な情報を選び、伝えたい内容をまとめて書く力をみる問題の例(「書く能力」)

<問題> の二

美化委員になった山田さんは、現在の学級の掃除について課題があると思ったので、自分の思いを表す文章を書き、学級の仲間に伝えることにしました。そこで、次のような「掃除についての事実や思い(メモ)」と、「構成表」を考え、「自分の思いを伝える文章」を書きました。

「自分の思いを伝える文章」の中のA に、「掃除についての事実や思い(メモ)」や「構成表」にもとづいた内容の文章を書きなさい。

<結果> 正答率 47.4% (正答...略)

<分析>

この設問は、山田さんが作成した構成表と文章を照らし合わせて、必要な情報をメモから正しく選び、複数の内容を文章としてまとめて書く力をみる問題である。無回答はわずかであったが、

正答率は47.4%であった。誤答としては、構成表の「私がめざしたい掃除」と「掃除に対する学級への願い」のうちの片方だけが書かれているものが多かった。その要因として、まとまった文章の記述において、文章全体を見通して構成をとらえることができていることが考えられる。今後は、「書くこと」の学習において、文章全体の見通しをもって、目的に応じて必要な情報を選び出し、構成を明確にする指導を充実させることが必要である。

(3) 文章の展開に即して内容を正しく読む力をみる問題の例(「読む能力」)

<問題> ㉓ の一

文章中に、不思議ないのちの躍動とありますが、その内容にあたるものは次のうちのどれですか。最も適切なものをア～エの中から一つ選び、符号で書きなさい。

- ア 「生物少年」となり、高校時代「生物部」に入部したこと。
- イ みごとなバランスで成り立つ生命体に心を奪われたこと。
- ウ なにげなくすくった水に小さな魚を見つけたときの子供の歓声のこと。
- エ 顕微鏡をのぞいた中に広がっている想像を絶する命の世界のこと。

<結果> 正答率 29.5% (正答...エ)

<分析>

この設問は、「不思議ないのちの躍動」が指す内容を、前の段落で述べられている筆者の経験と結び付けて正しく読む力をみる問題である。正答率は29.5%であった。誤答としては、イを選んだものが多かった。その要因として、「不思議ないのちの躍動」について、筆者の経験の中の何を指しているか、置き換えたときに余分な部分を含んでいないかなどを十分に検討することができていないことが考えられる。筆者の意図を踏まえ、内容を深く理解するためには、辞書に記載されている一般的な言葉の意味に加え、展開に即した文脈上の意味をとらえることが大切である。今後、「読むこと」の学習において、書き手の表現の工夫に着目し、文脈の中での言葉の意味や働きをていねいにとらえる指導とともに、生徒が読書経験を生かして内容を理解できるよう、読書指導を充実させていく必要がある。

(4) 小学校6年生までに学習した漢字を正しく書く力をみる問題の例

(「言語に関する知識・理解・技能」)

<問題> ㉔ の一の7

——部について、漢字に直して書きなさい。

7 キチョウな品物を集める。

<結果> 正答率 65.5% (正答...貴重)

<分析>

この設問は、小学校第6学年までに学習した漢字を正しく書く力をみる問題である。「貴重」は、小学校6年生の教科書教材の中で使われており、日常生活でもよく使われる言葉であるが、正答率は70%を下回った。誤答としては、「貴」は書けているが「重」が書けていないものが多かった。今後、学習した漢字を繰り返し練習することはもとより、文章を書く際に積極的に漢字を使う意識を高める指導を充実させる必要がある。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

表現の仕方や文章の特徴に注意しながら読む指導の設定を!

- ・「読むこと」では、文章の内容理解とともに、構成や文末表現等、表現の仕方や文章の特徴に注意しながら読む力を育てることが重要である。そのために、学習指導要領の指導事項「語句の意味や用法」や「内容把握や要約」「構成や展開」をバランスよく配置したり、言語事項の指導と関連付けるなど、年間指導計画の改善を図る必要がある。また、単元指導計画については、目的や意図に応じ様々な文種を読む学習を意図的に位置付け、語句の選び方や表現の仕方を比較したり、効果を考えたりする指導が一層充実するよう改善することが必要である。

(2) 指導方法の工夫改善

話し方の工夫を評価する活動の充実を!

- ・「話すこと・聞くこと」では、事実と意見の関係に注意して話す力や観点を明確にして聞き分け

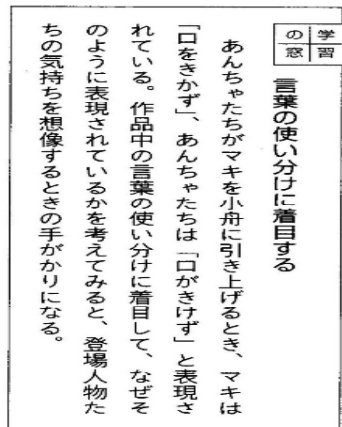
る力を高めることが重要である。そのために、話し合う前に話したり聞いたりする観点を明確にする指導が必要となる。例えば「話し合って考えよう」の単元では、話し合う前に、意見と理由、特長と問題点をメモに書いて伝えたい内容を整理し、どう組み立てて話すかを考えて、実際に話すことができるようにしておくことが大切である。そして、話したり聞いたりできたことをメモを基に評価する場を位置付け、生徒が話し手、聞き手双方の立場から評価できるようにする必要がある。

必要な情報を選び、書きまとめる活動の充実を！

- ・「書くこと」では、伝えたい内容を適切に選び、自分の考えとしてまとめて書く力を高めることが重要である。そのために、生徒が取材から記述まで書く過程の見通しをもち、目的や相手に応じた構成を考え、文章を書く学習が必要となる。例えば「わかりやすく説明しよう」の単元では、伝えたい内容を記したカードや付箋紙を構成メモに並べ、目的や相手に応じて付け加えたり外したりする学習を位置付けることが大切である。また、記述や推敲の段階では、自分の仲間と文章を読み合せて相互評価し、助言し合う場を位置付け、仲間の助言をもとに文章を修正するとともに、自分で文章を読み直す習慣が身に付くようにすることも大切である。

語句や表現を比較したり効果を考えたりする活動の充実を！

- ・「読むこと」では、文脈上における語句の意味を正確にとらえ、内容を理解する力を高めることが重要である。そのために、一語一語の意味や役割に気を付けながら、書き手の表現の仕方や文章の特徴まで目を向けられるように指導する必要がある。例えば「心の歩み」の単元では、文章の展開や登場人物の心情の移り変わりを読み取る際に、言葉の使い分けが登場人物の気持ちを想像する手がかりとなることを理解し、解釈をさらに深めることのできる重要な語句や表現の工夫を取り上げ、他の言葉に置き換えたり、他の表現と比較したりする指導が大切である。



(教科書 83 頁)

学習した言葉を文章の中で使う指導の充実を！

- ・「言語事項」では、語句や語彙等の理解を深め、生徒が学習した言葉を文章の中で利用するなど、社会生活の中で活用できるようにすることが重要である。そのために、生徒の興味・関心を引き出すことのできる身近な言葉を例として取り上げ、言葉の成り立ちや言葉の類別の観点等を正しく理解できるようにすることが必要である。また、一人一人の生徒が確実に理解し、身に付けているかを見届け、必要に応じて繰り返し指導するとともに、身に付けたことを日常生活で積極的に生かそうとする意識を高める指導が大切である。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

学校図書館の活用を計画的に位置付けた指導の充実を！

- ・各領域の指導に当たって、学校図書館を計画的に活用できるように工夫することが大切である。「話すこと・聞くこと」や「書くこと」における調べ学習はもとより、「読むこと」の単元で、多様な文種に目が向くよう、表現技法に特徴のある作品を紹介し合う学習や、同じ主題でも構成に違いのある作品を読み比べる学習を位置付けるなど、さまざまな工夫が考えられる。生徒が学校図書館を計画的に利用し必要な本や文章などを選ぶことができるように指導することを重視したい。

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科指導等 学力向上P」授業改善(H16~H18)及び授業改善推進プラン(H19・H20)」を参照する。[\(http://www.gifu-net.ed.jp/gec/\)](http://www.gifu-net.ed.jp/gec/)

例	平成16年度 学力向上P J 授業改善 第2学年 相互評価を活用し、事実と意見の関係に注意して話す力・聞く力の育成に取り組んだ実践
例	平成17年度 学力向上P J 授業改善 第1学年 言葉に着目して読み、仲間との交流の中で考えを深める力の育成に取り組んだ実践

関心・意欲・態度にかかわる指導改善の詳細については、P87意識調査結果を参照する。

中学校第1学年国語の授業において、生徒が楽しいと感じるのはどんなときか。
第1位 教科書や資料の文章の内容に興味をもったとき
第2位 自分で伝えることができたり、内容を理解できたりしたとき